

平成 30 年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業
(発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業)
成果報告書 (I)

実施機関名 (大阪市教育委員会)

1. 問題意識・提案背景

大阪市では、平成 27 年 4 月から、教育委員会の特別支援教育担当部署である「特別支援教育担当」を「インクルーシブ教育推進担当」と名称変更し、弊市の基本的方向である「共に学び、共に育ち、共に生きる」教育をさらに充実・深化すべく事業を推進している。

本市の「全国学力・学習状況調査」で、小学校においては、B 問題における「読むこと・話すこと」に関して全国との差がある。小学校低学年段階での読むこと、聞くことに対するつまずきが、改善されることのない状況であり、平均正答率の低さに影響している可能性がある。学力向上のためには、言語活動の基礎・基本となるひらがな、カタカナを読み書きできる力が備わっている必要があるとともに、数概念や基礎計算能力の向上が、国語科、算数科のみでなく、他教科の理解にも肯定的な影響を与えられると考えられる。

平成 29 年告示の小・中学校学習指導要領では、「通常の学級においても、発達障害を含む障害のある児童(生徒)が在籍している可能性があることを前提に、全ての教科等において、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援ができるよう、障害種別の指導の工夫のみならず、各教科等の学びの過程において考えられる困難さに対する指導の工夫の意図、手立てを明確にすることが重要である。」としている。そして、学習指導要領解説の全ての教科において、困難さに応じた指導の工夫を示している。

これまで以上に通常学級において、「だれもがわかる・できる」授業の工夫が求められている。

2. 目的・目標

通常学級において発達障害の可能性のある児童が、国語と算数において学習上のつまずくポイントを明らかにし、効果的な教科指導の方向性について研究する。

読み・書き・計算の基礎的・基本的な知識・技能は、小学校低学年や中学年において体験的な理解や繰り返し学習を重視するなど、発達段階に応じて徹底して習得することが求められている。

国語では、長音、拗音、促音、撥音の特殊音節が表記、読むことができること、文字に関する事項として基礎的なひらがな・カタカナの読み書きと使い方が確実にできることがあげられる。算数では、数概念の理解(大小を比較できること、数の配列を理解していること)、基礎的な計算を正確かつスムーズに解けることがあげられる。

これらについて、低学年の早い段階で学習困難のある児童を見つけ、早期に適切な指導・支援を実施する。また、その効果について検討し、必要な児童には集中して支援を提供する等指導方法、指導時間、指導体制などを学校組織として体系的にモデル事例としてできるよう検討・構築する。

教科教育スーパーバイザー(大学教員)から担当教員が直接的にアドバイスを受ける。特に小学校低学年の国語科における読み書き困難のある児童への、実態把握に基づいた困難さ克服のための指導内容・指導方法を示し、その実践事例を整理、蓄積し、報告書にまとめる

とともに、HPにより周知・公開する。

3. 主な成果

国語では、スクリーニングテストとプログレスモニタリングテストとして、「ひらがな・カタカナ10単語聴写テスト」を小学校1・2年生に実施した。テスト結果の学級ごとの一覧表から、学級ごとの課題と個人別の誤りの傾向を分析し、学級全体の指導にあたった。学級全体の指導では、特殊音節を動作化したり、拗音はのばした時に「あ」になる → 「Oゃ」という規則性を説明したり、しりとり遊びを通して語彙数を増やすなどの工夫を行うことで、特殊音節の誤表記が減少した。また、4年生に実施した101漢字の書き取りについては、誤りパターンに応じた支援をすることで、誤答なしの人数が、増加した。算数では、スクリーニングテストとプログレスモニタリングテストとして「算数チャレンジ」というプリントを使用した。2年生では、たし算、引き算を、5年生では四則計算を朝学習の時間や算数の時間で取り組んだ。結果として、それぞれの学年の学級とも、1分間の正答数の増加、計算スピードの向上が見られた。

平成30年度の本事業の成果については、平成31年1月19日の大阪市教育センターフォーラムにて、報告した。

4. 取組内容

- ① 教科の学習上のつまづきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

ア 大阪市立東淡路小学校

1. 対象とした学校、学年

小学校1年生・2年生

2. 教科名

国語

3. 実施方法

① 教科指導法研究事業運営協議会の設置状況、活動内容

設置状況

No.	所属・職名
1	大阪市立東淡路小学校長
2	神戸親和女子大学 准教授 森田安徳
3	大阪市教育委員会インクルーシブ教育推進担当指導主事
4	大阪市立東淡路小学校 研究代表者

活動内容

- 平成30年4月 管理職と指導主事との打ち合わせ
- 平成30年5月 年間計画確認
- 平成30年6月 校内研修
- 平成30年7月 聴写テスト実施
- 平成30年8月 夏休の宿題での課題
- 平成30年9月 聴写テストの結果分析
- 平成30年10月 学習方法検討
- 平成30年11月 指導法実践
- 平成30年12月 聴写テスト実施
- 平成31年1月 実践報告（大阪市教育センターフォーラム）
- 平成31年2月 担当教諭からの聞き取り
- 平成31年3月 活動内容のまとめ

②教科教育スーパーバイザーの配置状況、活動内容

ア 教科教育スーパーバイザー・・・スクリーニングによる課題のある児童を見つけ出し、効果的な指導・支援について担当教員へのアドバイスを実施。経過観察をしながら、評価と追指導を助言。評価と指導を体系的に実施し、学校組織として活用できるよう汎化に対する支援。

月1回ペースで学校訪問支援

イ 教科教育サポーター・・・必要な児童に効率的、効果的に指導を提供するために担当教員の授業を支援する。スクリーニングテストの採点業務等を担う。担当教員と協力し、支援の必要な児童の支援に努める。大学院生もしくは研究生等に依頼する。

週4日程度

③本事業のために教育委員会が実施した研修・指導主事の訪問等

- 平成30年4月23日 ひらがな・カタカナ 10単語聴写テスト
101漢字について校内研修

平成30年5月31日	スケジュールの確認
平成30年6月20日	聴写テストの活用について
平成30年7月5日	担当学年・特別支援学級担任と打ち合わせ
平成30年8月27日	授業参観 指導法検討
平成30年9月11日	担当学年・特別支援学級担任と打ち合わせ
平成30年9月18日	学校長、担当者、アドバイザー打ち合わせ
平成30年10月16日	学校長、担当者、アドバイザー打ち合わせ
平成30年12月7日	授業参観 指導法検討
平成30年12月21日	学校長、担当者、アドバイザー打ち合わせ
平成31年1月7日	学校長、担当者、発表打合せ
平成31年1月19日	成果発表（大阪市教育センターフォーラム）
平成31年2月22日	成果まとめ打合せ

4. (ア) 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

対象とした児童生徒のつまずきの状況

- ・特殊音節の省略や転移。

「かけっこ」→「かけこ」「きゅうり」→「きゅり」

- ・濁点・半濁点の省略。

「ペンギン」→「ペンキン」「きっぷ」→「きっふ」

- ・表記ルールの誤り。

「メがね」「きゅーり」

- ・拗音の小文字の置換。

「しゅくだい」→「しょくだい」「きゅうり」→「きょうり」ひらがな・カタカナ10単語聴写テスト

(神戸親和女子大学 森田安徳先生)

① 実態把握の時期：

6月・12月

② 実態把握の方法（実施者・方法）：

学級担任が実施。使用時間10分。
ひらがな・カタカナ10単語の聴写テストを行う。1年生はひらがな、2年生はカタカナで教師が読みあげる言葉を聞いて書きとる。わからない文字がある場合は「○」を文字の代わりに書く。4年生は101漢字テストのを実施する。

テスト終了後一覧に誤答を書き出し、つまずきを把握する。

ひらがな単語									
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
しょうぼうしや	しよつき	きゅうり	しゅくだい	おとうさん	ふうせん	かけっこ	きつぷ	ペンギン	めがね
カタカナ単語									
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
リュックサック	ソーセイジ	チューリップ	サッカー	パジャマ	コロツケ	ペンギン	ミシン	ダンス	キツネ

(イ) 実施した指導方法（工夫した点）

実施した指導内容

① 学習上においてつまずいている内容

- ・特殊音節の省略や転移。
- ・濁点・半濁点の省略。
- ・表記ルールの誤り。
- ・拗音の小文字の置換。
- ・漢字・・・形、意味、音・読み・注意

② つまづいている背景・原因

- ・音の操作が難しい
- ・文字と音の変換
- ・字形がうまく取れない
- ・文字の区別と記憶が難しい。

③ ①に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中、授業外））

- ・特殊音節を動作化する・・・音を視覚化する
長音は 手を合わせてのばす
促音は 手を上にあげる
- ・拗音は のばした時に「あ」になる →「Oゃ」
のばした時に「う」になる →「Oゅ」
のばした時に「お」になる →「Oょ」.
- ・言葉カードの三択クイズ
- ・ことば集め・・・ノートに「小さい『っ』のつく言葉」を書く
- ・小さい「や・ゆ・よ」クイズ
- ・プリント学習・・・MIM プリントを週3回
- ・のばす音みつけ・・・カタカナののばす音をクラス全員が1個ずつ見つけていく、クラス全体で実施する
- ・カタカナ言葉探し・・・文字カードを使って言葉さがし
- ・連絡帳・・・カタカナを多めにする
- ・漢字については、誤りパターンに応じた支援、間違った漢字の学習

④ ③の結果（児童生徒の変容を含む）

- ・ゲーム性を持たせたことにより児童は意欲的に、特殊音節の学習に取り組んだ。
- ・特殊音節の間違いが減少した。
- ・筆順に注意を向けられるようになった。
- ・「これでいいですか」と先生によく確認するようになった。
- ・自分一人のためのプリントを喜んだ。
- ・「自分の誤った漢字を視写する」課題は新鮮で興味を持った。

⑤ 効果がある具体的な指導方法

- ・特殊音節の視覚化
- ・特殊音節の動作化
- ・毎日書く連絡帳の内容をカタカナで書く
- ・特殊音節の言葉集めゲーム
- ・リズムに合わせてしりとり
- ・誤りのパターンに応じたプリント作成

5. 今後の課題と対応

1) 事前につまづかないようにするための指導の工夫・内容

ひらがな・カタカナ10単語聴写テストにて、つまづいている児童や学級のつまづきの傾向を把握する。

2) 通常の学級の授業における有用な指導方策

ひらがな・カタカナ10単語聴写テスト

誤りのパターンに応じた漢字プリントの作成

イ 大阪市立すみれ小学校

1. 対象とした学校、学年

小学校2年生・5年生

2. 教科名

算数

3. 実施方法

① 教科指導法研究事業運営協議会の設置状況、活動内容

設置状況

No.	所属・職名
1	大阪市立すみれ小学校長
2	大阪教育大学 准教授 野田航
3	大阪市教育委員会インクルーシブ教育推進担当指導主事
4	大阪市立すみれ小学校 研究代表者

活動内容

- 4月 管理職と指導主事との打ち合わせ
- 5月 年間計画確認
- 6月 校内研修
- 7月 さんすうチャレンジ 実施
- 8月 校内研修
- 11月 指導法実践 ～2月
- 12月 さんすうチャレンジ 実施
- 1月 まとめ研修

② 教科教育スーパーバイザーの配置状況、活動内容

ア 教科教育スーパーバイザー・・・スクリーニングによる課題のある児童を見つけ出し、効果的な指導・支援について担当教員へのアドバイスを実施。経過観察をしながら、評価と追指導を助言。評価と指導を体系的に実施し、学校組織として活用できるよう汎化に対する支援。

月1回ペースで学校訪問支援

イ 教科教育サポーター・・・必要な児童に効率的、効果的に指導を提供するために担当教員の授業を支援する。スクリーニングテストの採点業務等を担う。担当教員と協力し、支援の必要な児童の支援に努める。大学院生もしくは研究生等に依頼する。

週4日程度

③ 本事業のために教育委員会が実施した研修・指導主事の訪問等

- 平成30年4月26日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
- 平成30年5月10日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
- 平成30年5月29日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
- 平成30年6月21日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
- 平成30年8月27日 学校長、5年担当者、アドバイザー打合せ
- 平成30年8月30日 学校長、2年担当者、アドバイザー打合せ

平成30年9月19日 担当者、アドバイザー打合せ
 平成30年10月5日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
 平成30年11月1日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
 平成30年12月20日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
 平成31年1月9日 成果発表担当者打合せ
 平成31年1月19日 成果発表（大阪市教育センターフォーラム）
 平成31年2月20日 成果まとめ打合せ

4. 取組の概要

ア 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

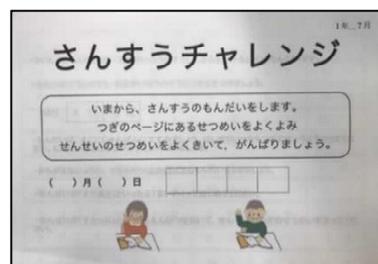
対象とした児童生徒のつまづきの状況

たしざん（くりあがりなし・あり）
 ひきざん（くりさがりなし・あり）
 かけざん（九九）
 わりざん（九九）

さんすうチャレンジテスト

（大阪教育大学 野田航先生）

「さんすうチャレンジ」は①数字の大小、②数列理解、③計算の3つの課題から構成されている。各課題は1分でできる簡易検査である。



① 実態把握の時期：

7月・12月

② 実態把握の方法（実施者・方法）：

学級担任が実施。

（2年）1枚につき1分 計4分

たしざん、ひきざん、数の大小、数列

（5年）1枚につき1分 計7分

たしざん、ひきざん、かけざん、わりざん、

混合問題、数の大小、数列

9-6=	3×7=	9÷1=	4+4=
7+0=	12-9=	7×7=	4×1=
6÷2=	1×7=	12÷4=	1×8=
8-3=	7-4=	9÷3=	4×4=

チャレンジテスト実施結果のまとめ方

1分間テストにおける正当数（**流暢性**）

関西圏公立小学校2100名の
データをもとに基準値を設定

- 要支援・・・下位10%未満（赤）
- 気になる・・・下位10%以上25%未満（黄）
- 問題なし・・・下位25%以上（緑）

イ 実施した指導方法（工夫した点）

1) 学習上においてつまづいている内容

- 計算ができない
- くり上がり、くりさがりができない
- 数の大小がわからない
- 九九ができない

2) つまづいている背景・原因

- 計算することが苦手
- 推論することが苦手
- 計算の基礎的スキルの不足

3) 1) に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中、授業外））

- 計算の基礎スキルの流暢性を向上させる
1 桁の計算に素早く答える
1 週間に 2日 各2枚 「さんすうチャレンジ」実施

4) 3) の結果（児童生徒の変容を含む）

- 1 分間の正答数の増加
- 計算スピードの向上

5) 効果がある具体的な指導法

「さんすうチャレンジ」

5. 今後の課題と対応

① 教科における学習上につまづくポイント

- 計算ができない
- くり上がり、くりさがりができない
- 数の大小がわからない
- 九九ができない

② つまづくポイントにおける効果がある指導方法・内容

1) 事前につまづかないようにするための指導の工夫・内容

「さんすうチャレンジ」にてつまづいている児童の把握
「九九道場」の実施

2) 通常の学級の授業における有用な指導方策

「さんすうチャレンジ」で単純な課題を繰り返し行う
「九九道場」で見る、写す、解く、すぐに答えの確認の一連の行動で計算力をつける

5. 今後の課題と対応

課題

(国語)

- 指導法の検討、周知
- 個別指導の体制と時間の確保
- 課題のある児童への個別指導法の検討
- 漢字の読字、書字に課題がある児童への対応
- 個別プリント作成の効率化
- テスト結果の分析時間の確保
- 他校でも汎化できるように、ひらがな・カタカナ 10 単語聴写テスト実施手順書の作成

(算数)

- 個別指導の体制と時間の確保
- 課題のある児童への個別指導法の検討
- 毎回のテストを ICT 化できないか 紙からタブレットへ
 - 採点の自動化
 - 評価の自動化
- 他校でも汎化できるように、チャレンジテスト実施手順書の作成

6. 問い合わせ先

組織名：大阪市教育委員会事務局

- (1) 担当部署 指導部 インクルーシブ教育推進担当
- (2) 所在地 大阪市東淀川区東淡路 1-4-21
- (3) 電話番号 (06) 6327-1014
- (4) FAX 番号 (06) 6327-1023
- (5) メールアドレス ua0016@city.osaka.lg.jp